

3. 認定看護師としての体験

～認定看護師になる前と後での看護観の変化について～

医療法人 榮昌会 吉田病院 附属脳血管研究所
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
植松宏明

認定看護師の役割には①実践②指導③相談があり、実践において専門的な知識と技術を用いてケアを実施することやスタッフも同じように専門的なケアを理解して実施できるように指導・相談を行い、全体的な「看護の質」を高める役割がある。私は、認定教育課程受講と資格取得後の経験によって自分の看護を深く見つめなおすことができ、それにより、より広い視野で看護を考えることができるように成長できた。また、広い視野により、スタッフへのアプローチや他職種への気遣いも患者・家族を看ていくためには重要であり、認定看護師は、その中間に立って、橋渡しをしていく役割があると考えます。

私は、認定看護師資格を取得する前は脳神経外科・神経内科病棟やICU 併設の救急病棟で勤務し、自分の中で「命を守ること＝看護」という思いの中で仕事をしてきた。その中で、もっと専門的な知識と技術を高めたいという理由から認定看護師教育課程を受講し、そこで様々な出会い、様々な刺激により、今まで大事にしてきた「看護」がどれだけ狭い世界の話であったか。また、視点が「患者・家族」ではなく、思い込みにより「医療者側の意図」が強い環境に置かれている事実を目の当たりして、自分の看護を少なからずその影響により「押し付けの看護」を提供してきた事実ショックを受けた。同期の仲間に叱咤激励を受けながら、もう一度自分の看護を振り返り、看護というものを「医療者側のケアを押し付けるのではなく、本人（患者・家族）が自分で選択できるように支援する。その手伝いをするのが、本人にとって必要な看護である」ということの重要性に気づくことができ、その後、看護をするにあたり、患者・家族の思いやそれにかかわる職種などに目を向け、全体で“その人”をとらえるようになりました。現在私は、回復期リハビリテーション病棟で勤務しているが、リハビリテーションにおいて、本人の意欲・やる気がないうちは、どのような状況でも前に進むことができず、また、医療者側が必要と考えることを押し付けても、患者・家族が「よし！」としない限りは、前進しないことを日々目の当たりになると認定看護師教育課程での学びは、自分の看護師人生に大きな影響を与えてくれたと感謝している。

その他に認定看護師には「指導」「相談」という役割があり、看護の質を上げる為にスタッフに対して指導をしていく役割があるが、“自分一人が必要”と考えることをしていても継続はされず、看護組織が考える目的・目標に沿う内容でないと、自分の意図した内容を継続することは困難であり、「自分が」考える内容ばかりを押し進めるのはうまくいかないことを体験した。リハビリテーションはチーム医療であり、職種間で意見交換をする場面が多いが、お互いに主張し合い、お互いに壁を作って倦厭することもあった。しかし、私がそれぞれの主張に耳を傾け、それぞれの役割を理解し、相手の立場に立って振り返ると、理解できる部分や理解できていなかった内容が見えるようになり、それをそれぞれに伝え、理解を示すことにより、指導も他職種連携も円滑に、継続できるようになった体験を今もしている。

認定看護師には、専門的な知識と技術による看護展開だけでなく、様々な職種と関わり、橋渡しの役割も担っている。自分のやりたいことだけをするのではなく、患者・家族を中心にチーム全体で協力し合える環境にしていくことも役割の一つであると確信している。